

イデックスオイルレポート ~For a week~

2024/4/12作成 (株)新出光

【概況】

●5日、シリアで1日に発生したイラン大使館領事部への攻撃をめぐり、イランはイスラエルの関与だと断定し、報復を明言。ネタニヤフ首相は4日、イランについて「イスラエルはイランとその同盟勢力に対抗する」と指摘し、攻撃されれば報復措置に踏み切る考えを示した。2国間の緊張の高まりが産油国を含む中東地域全体へ波及すれば、エネルギー供給にも影響が及ぶとの懸念がくすぶり、相場は86.91ドルへ続伸しました。

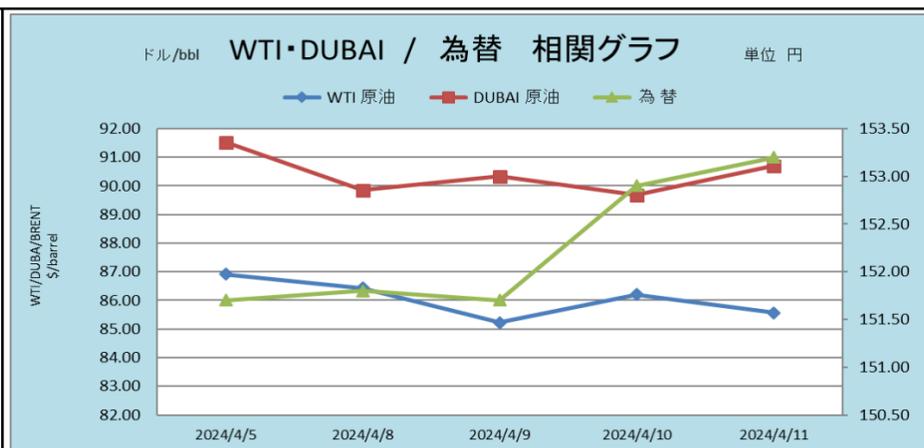
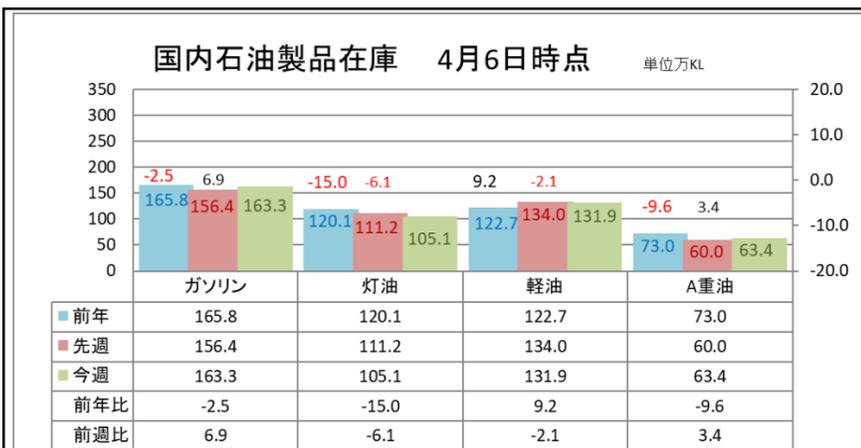
●8日、イスラエルとハマスの交渉再開を受け、エジプトの一部メディアは8日、交渉で「前進が見られた」と報道。イスラエル紙ハーレツ(電子版)は8日、「慎重に楽観している」との外交筋の話を伝えた。交渉の進捗(しんちよく)状況については依然として情報が交錯しているものの、地政学的リスクへの過度な警戒感が後退、相場は86.43ドルへ反落しました。

●9日、イスラム組織ハマスが9日未明、声明で、パレスチナ自治区ガザでの戦闘休止と人質解放を巡る交渉に関し、仲介役のエジプトとカタールから新たに提示された休戦案について精査する意向を表明したと報道。一方、イスラエルのネタニヤフ首相は8日、ガザ最南部ラファへの地上侵攻を巡り、「期日がある。必ず起きる」と宣言し、引き続きハマスの圧力をかける姿勢を示した。イスラエルとハマスの戦闘休止を巡る交渉の行方が注視される中、相場は85.23ドルへ続落しました。

●10日、ガザ休戦交渉を巡る不透明感を材料に、朝方にかけての相場は強もち合い。イスラエルとの戦闘を続けるイスラム組織ハマスは9日未明、仲介役のエジプトとカタールが新たに提示した休戦案は要求を何一つ満たしていないとしつつも、内容を精査して回答する考えを示した。ただ、イスラエルがハマス指令官の息子3人を空爆で殺害したとの報を受け、歩み寄りには難航するとの懸念が拡大した。また、イランが在シリア大使館に対する攻撃の報復として、原油輸送の要衝であるホルムズ海峡の封鎖を警告するなど供給網混乱への警戒感が広がり相場は86.21ドルへ反発しました。

●11日、米労働省が前日発表した3月の米消費者物価指数(CPI)は前年同月比3.5%上昇と、伸びは2カ月連続で拡大。インフレ圧力の根強さが改めて浮き彫りとなり、米連邦準備制度理事会(FRB)による6月の利下げ観測が後退した。半面、高金利環境の長期化が経済成長の重しとなり、エネルギー需要の鈍化につながるとの懸念が再燃。10日公表された米エネルギー情報局(EIA)週報で、米原油在庫が大幅増加したことも圧迫要因となり、原油売りが先行し相場は85.02ドルへ反落しました。

4月12日 16:00現在 WTI原油 85.88ドル 為替 1ドル 154.09円



	次回元売変動予測	
	4/18~	元売変動予測
ガソリン	→	-0.4~0.1
灯油	→	-0.4~0.1
軽油	→	-0.4~0.1
A重油	→	-0.4~0.1
LSA	→	-0.4~0.1

【製品卸価格】

◀今週▶ 今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは「+3.5円」、補助金は、「-28.7円・60%」、都合「▲1.3円」の値下げ改定となりました。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの8日時点の小売価格平均は175.0円となっております。

◀4月18日以降▶ 次回の元売り改定は、原油コストは「+1.0円~+1.5円」、激変緩和補助金は「-30.1円・60%」の見込みで、都合「▲0.4円~+0.1円」の改定の予測となっております。

※原油コスト「1.0円~1.5円」
 ※激変緩和補助金「-30.1円」 前週比-1.4円
 ※現時点での予測です。

【次世代エネルギー】 <ENEOS、晴海フラッグに水素供給 マンション向け国内初>

ENEOSは27日、東京都中央区に新たな水素販売拠点となる「水素ステーション」を開いた。燃料電池車(FCV)などに水素を販売するほか、導管を通じて近隣のマンションに供給する。水素をマンションに直接販売するのは国内で初めてという。ENEOSはガソリン需要が縮小するなか、水素を新たな収益源に育てようとしている。車両向け以外の用途を開拓する。

導管による水素の供給では東京ガスと組む。大型マンション群「晴海フラッグ」(東京・中央)に設置した燃料電池に毎時150立方メートルの水素を送り、電気に変換する。電気はマンションの共用部などで使われる。

水素の使用料はマンションの保有者が支払う。価格は非開示としている。ENEOSとして水素ステーションの開設は44カ所目になる。